

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
実践看護学特論Ⅳ(在宅看護)	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	栗栖千幸、佐々木真弓、吉野有美子			
授業概要	健康問題のある在宅療養者と家族に対する看護支援の現状と課題を認識し、療養者と家族の在宅生活を支援する医療・福祉・教育機関と事業所における看護に関する知識と看護の質向上にむけた方策を、知識と関連する研究を用いて探究する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の様々な場で展開される看護実践を、主要概念・理論・モデルを用いて説明できる。 2. 在宅療養者と家族を支える看護の質向上に向けた方策を討議できる。 3. 地域看護学および在宅看護学に関する研究の動向を探求できる。 			
履修条件				
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	在宅療養者を取りまく社会状況	栗栖	
	2	在宅療養を支える法・制度	栗栖	
	3	在宅療養者と家族の包括的アセスメントの方法	栗栖	
	4	介護保険制度におけるケアマネジメント	吉野・栗栖	
	5	在宅療養者と家族を支える専門職連携	栗栖	
	6	在宅療養者と家族を支える看護実践	栗栖	
	7	医療的支援と在宅看護：呼吸管理	佐々木・栗栖	
	8	誤嚥性肺炎予防に焦点を当てた訪問看護実践	佐々木・栗栖	
	9	在宅療養者の権利擁護	栗栖	
	10	在宅看取りへの訪問看護	佐々木	
	11	医療機関における退院支援の実際	吉野	
	12	在宅療養者と家族を支える看護管理と経営	栗栖	
	13	事例検討：在宅療養者と家族に関する支援への課題	栗栖	
	14	課題：在宅療養者と家族に関する研究の動向	栗栖	
15	発表：在宅療養者と家族に関する研究の動向	栗栖		
教科書	なし			
参考書	授業内容に応じて、資料の配布又は文献の紹介を行う。			
評価方法・基準	討議への参加状況(30%)、課題レポート(50%)、口頭発表(20%)			
事前・事後学習	事前に提示する課題・資料を予習して授業に臨む。 事後学習として、授業での学習内容を自己学習で深め、課題レポートに反映させる。			
備考	特になし			